

## 第 5 ・ 6 学 年      音 楽 科

### 1 学 年 の 目 標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

### 2 内容及び内容の取扱い

A 表 現	歌 唱	<p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能</p> <p>(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付け、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能</p> <p>(ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…共通教材（4曲中3曲）を含めて斉唱及び合唱で歌う曲</p> <p>〔共通教材〕…第5学年 「こいのぼり」（文部省唱歌） 「子もり歌」（日本古謡）  「スキーの歌」（文部省唱歌） 「冬げしき」（文部省唱歌）  第6学年 「越天楽今様（歌詞は第2節まで）」（日本古謡）  「おぼろ月夜」（文部省唱歌）  「ふるさと」（文部省唱歌）  「われは海の子（歌詞は第3節まで）」（文部省唱歌）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱教材の選択に当たっては、曲の内容や音域が、高学年の児童に適したものであり、児童の実態に応じ、無理なく楽しく表現できるものであること。</li> <li>・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。</li> <li>・国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。</li> </ul>
	器 楽	<p>ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能</p> <p>(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能</p> <p>(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…歌唱で扱った教材に必ずしもとらわれることなく、楽器の特徴や演奏効果を考慮して器楽のためにつくられた重奏や合奏などの曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽教材の選択に当たっては、児童がいろいろな種類の音楽への興味・関心をもち、表現の豊かさを味わうことのできる曲を選択し、音楽の聴き方や感じ方を深めるようにする。</li> <li>・取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。</li> <li>・第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。</li> </ul>

A 表 現	<p>ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。</p> <p>(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。</p> <p>(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。</p> <p>(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</p> <p>(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴</p> <p>ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 設定した条件に基づき、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</p> <p>(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能</p>
B 鑑 賞	<p>ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。</p> <p>〔鑑賞教材〕…ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽など文化との関わりを捉えやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く喜びを深めやすい曲</p> <p>ウ 楽器の音や人の声が重なり合う響きを味わうことができる、合奏、合唱を含めたいろいろな演奏形態による曲</p> <p>・鑑賞教材の選択に当たっては、児童がいろいろな種類の音楽への興味・関心をもち、表現の豊かさを味わうことのできる曲を選択し、音楽の聴き方や感じ方を深めるようにする。</p>
共 通 事 項	<p>「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。</p> <p>・児童の発達段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)から適切に選択したり関連付けたりして指導する。</p> <p>(ア) 音楽を特徴付けている要素 音色、リズム、速度、旋律、強弱音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど</p> <p>(イ) 音楽の仕組み 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など</p> <p>・「音符、休符、記号や用語」については、児童の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。</p>

### 3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。</li> <li>・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>